

「比較統合医療学会誌」投稿規程

1. 本会誌の原稿は、動物に対する漢方、鍼灸ならびに東洋医学全般にわたる学理および応用に関する研究を内容とする原著、短報、総説、解説、症例報告、集会記録および雑報などとする。
 2. 本会の会員はすべて本会誌に投稿することができる。また、編集委員会は本会の目的に沿う原稿を依頼することができる。
 3. 原稿は和文または英文とし、事務局に提出する [16 参照]。
 4. 提出は E メール、フロッピー、CD でもよいが、プリントアウトしたものを 1 部添える。その原稿は、A4 判用紙を使用し、1 頁（片面）を 25 字× 24 行の横書きで、ページを付す。
原稿の枚数は、表題、和文要約、英文要約 (Abstract)、本文、図（写真を含む）・表等すべてを含めた枚数で、投稿区分の規定枚数は、別表の通りとする。英文論文もこれに準ずる。
【別表】 主な掲載区分と投稿原稿の制限枚数および刷り上り頁枚数
- | 掲載区分 | 投稿原稿制限枚数
A4 判ワープロ等
(25 字× 24 行) | 刷り上り頁数 |
|---------|---------------------------------------|--------|
| 総 説 | 20 枚 | 5 頁以内 |
| 原 著 | 15 枚 | 4 頁以内 |
| 短 報 | 10 枚 | 3 頁以内 |
| 解説、症例報告 | 15 枚 | 4 頁以内 |
| 集会記録、雑報 | 8 枚 | 2 頁以内 |
5. 同じ筆頭著者による原稿は、原則として同一号に 1 編を限って掲載することにする。
 6. 原稿の採否、掲載の順序などは複数レフェリーの意見を参考にし、編集委員会において決定する。再提出を求められた原稿は返送日（発送した日）から 2 カ月以内に再提出すること。2 カ月以上を経過して再提出された場合は、新規投稿受付として取扱われる。なお、原稿（図表などを含む）の体裁、長さ、文体などについて著者に改変を求めることがある。
 7. 投稿原稿については、次の基準により料金を申し受ける。
 - 原著 1 編につき本会において 25,000 円を負担する。
 8. 短報：独創に満ちた特に優れた研究成果で、短い紙面で十分にその業績内容を知らせることのできる研究報告。原稿 1 枚目に短報と朱記すること。
 9. 集会記録：集会記録は、世話人あるいは座長によるまとめを集会原稿として受け付ける。
 10. 原稿の作成にあたっては次の諸点に留意されたい。
 - (1) 原著の投稿原稿は次の順序に配列する。
 - (a) 表紙 [〈1〉 参照]
 - (b) 和文要旨 [〈2〉 参照]
 - (c) 英文 Abstract [〈3〉 参照]
 - (d) 本文 [〈4〉 参照]
 - (e) 表とその説明 [〈5〉 参照]
 - (e) 図とその説明 [〈5〉 参照]
 - (2) 短報原稿は次の順序に配列する。
 - (a) 表紙 [〈1〉 参照]
 - (b) 英文 Abstract [〈3〉 参照]
 - (c) 簡明に記載した緒言 (Introduction)、材料 (対象) と方法 (Materials and Methods)、結果 (Results)、考察 (Discussion)、結論 (Conclusions)、文献 (References)
 - (d) 表とその説明 [〈4〉 参照]
 - (e) 図とその説明 [〈4〉 参照]
 8. 同じ筆頭著者による原稿は、原則として同一号に 1 編を限って掲載することにする。
 9. 原稿の採否、掲載の順序などは複数レフェリーの意見を参考にし、編集委員会において決定する。再提出を求められた原稿は返送日（発送した日）から 2 カ月以内に再提出すること。2 カ月以上を経過して再提出された場合は、新規投稿受付として取扱われる。なお、原稿（図表などを含む）の体裁、長さ、文体などについて著者に改変を求めることがある。
 10. 投稿原稿については、次の基準により料金を申し受ける。
 - 原著 1 編につき本会において 25,000 円を負担する。
 8. 短報：独創に満ちた特に優れた研究成果で、短い紙面で十分にその業績内容を知らせることのできる研究報告。原稿 1 枚目に短報と朱記すること。
 9. 集会記録：集会記録は、世話人あるいは座長によるまとめを集会原稿として受け付ける。
 10. 原稿の作成にあたっては次の諸点に留意されたい。
 - (1) 表紙

原稿には次に示す内容と順序を備えた表紙を付す。

 - (a) 和文および英文で、表題、著者名、所属機関および所在地を併記する。
 - (b) 表題中には略語を用いない。また、所属機関名は研究室名、教室名まで記載する。
 - (c) キーワード (原則として 3 語) を要旨と Abstract の後に記載する。
 - (d) 表紙の最後に論文の構成を記載する (例：表紙 2 枚、Abstract 1 枚、本文 20 枚、図 3 枚、表 4 枚)。
 - (2) 要旨は 400 語以内とする。

〈3〉 Abstract は英文 250 語以内で作成する。

〈4〉 本文

- (a) 原稿は和文または英文とする。
- (b) 和文原稿は A4 判 400 字詰、原稿用紙横書き、楷書体とする。またはワープロ打ちとする。
- (c) 英文原稿はダブルスペースで作成する (A4 判作成用紙を使用すること)。
- (d) 緒言 (Introduction)、材料と方法 (Materials and Methods)、結果 (Results)、考察 (Discussion)、結論 (Conclusions)、文献 (References) の順に記載する。なお、英文原稿の場合は、文献の後ろに和文抄録 (Abstract を日本語にしたもの) を付ける。
- (e) 文中、文献を示す数字は、文中の右肩付きとし、右片括弧に入れる。
- (f) 略語は、文中の初出のものは全綴りの後 () 内に記す。
- (g) 外来語および外国人名で慣用訳のないものは原字をそのままを用いること。動物、植物、細菌などの学名はアンダーラインを引くかイタリック体とする。
- (h) 度量衡の単位には m、cm、mm、 μ 、nm、pm : L、mL、 μ L : kg、g、mg、 μ g : xg などを用い、各符号の後に省略記号 (.) を付けない。
- (i) 数を表すにはすべて算用数字を用いるが、成語はそのまま用いること (例: 一般、同一、1 回、1 度)。
- (j) 本文中に表、図の挿入箇所を右枠内に明示する。
- (k) 本文中の表、図の引用は、表 2、図 2 のごとくとする。
- (l) 引用した文献は、本文中においては順次に番号を付け、本文の終わりに番号の順序に従って列挙し、各文献ごとに著者名、表題、雑誌名、巻、頁 - 頁、年 (西暦) を明記すること。ただし巻数の記載を欠く雑誌を引用する場合は、巻の代わりに号数、または発行年月日を記入する。

[例]

- 1) 立山一郎: 和漢薬と成人病、和漢医薬学雑誌 1, 1-20, 1984.
- 2) Brown, J. C. A., Nixon, B. D., Diamond,

B. H. and Green, J. K.: Isolation of phorbol ester, Science 228, 101-119, 1960.

- 3) Gray, B., King, C. and Johnson, A.: Lectin from beans. In "Lectin II" (ed. by Johnson, A), Academic Press. New York, pp. 85-111, 1970.

注意:

- 1) 共著者名は全部列挙すること。
- 2) 英文誌名は Index medicus 採用の略語を使用し、アンダーラインを引くかイタリック体とする。
- 3) 掲載未決定のものは文献として採用しない。ただし、掲載決定のものは掲載誌名とともに、できるかぎり巻、年などを記載すること。
- 4) 学会発表のものを文献として引用する場合は、学会誌に抄録として、あるいは抄録集に掲載されたものを採用する。

〈5〉 図表

- (a) 図表は原則として、原著では 15 枚以内、短報では 2 枚以内とする。
- (b) 図表は必ず黒インクで正確にトレースした図案またはそのデータとし、A4 判白紙に貼付またはプリントすること。
- (c) 図表の題名ならびに説明はすべて英文とするのが望ましい。題目は最初の語のイニシャルのみ大文字とし、最後にピリオドを打つ。
- (d) 表の題名はその上部、図 (写真を含む) の題名はその下部に記し、それらの説明はすべて下部に簡明に記載すること。なおそれらの番号は Table 1、Fig. 2 (写真を含む) のごとく記載する。
- (e) 図については刊行の迅速と誤謬の絶無を期すため、図 (画) は提出原稿から直接製版する。ただし、編集委員会において体裁不相当と認めた場合は著者と合議の上、編集部においてトレースすることがある。この場合は実費を請求する。
- (f) 既発表の図 (写真を含む)、表、その他を引用、転載される場合には、あらかじめ著作権所有者の許可を得ること。

11. 英文中に使用する中国語起源の薬は次のように表記する。

(1) 日本語読みの後に () で中国語読みを入れる。次に漢字を記載する。中国語読みは文中初出の場合のみとする。

(例) 小柴胡湯の場合

Sho-saiko-to (Xiao-Chai-Hu-Tang)、小柴胡湯

和漢医薬学会誌で使用するヘボン式ローマ字の表記

a	i	u	e	o				
ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo	
sa	shi	su	se	so	sha	shu	sho	
ta	chi	tsu	te	to	cha	chu	cho	
na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo	
ha	hi	hu	he	ho	hya	hyu	hyo	
ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo	
ya	(i)	yu	(e)	yo				
ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo	
wa	(i)	(u)	(e)	(o)				
ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo	
za	ji	zu	ze	zo	ja	ju	jo	
da	(ji)	(zu)	de	do				
ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo	
pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo	

添え書き

- 1) 撥音「ン」は一般的には n で表すが、b、m、p の前では m を用いる。
- 2) 撥音 n と次にくる母音字または y とを切り離す必要がある場合には、n の次に「'」を入れる。
- 3) 促音は、最初の子音字を重ねて表す。

(2) 日本語読みの表記はヘボン式ローマ字による。

12. 用語英語訳の表現は下記のように記載するものとする。

漢方	Kampo
方剂	Hozai, -hozai, formulation
和漢薬	Wakan-yaku
漢方医学	Kampo medicine
漢方薬	Kampo medicines

13. 生薬は、中国で使用しているものと日本で使用しているものが、同じ名前でも違うものがあるので、使用した生薬名と学名を併記し () 内に産地名を入れる。方剂名は“材料と方法”

の項に () でメーカー名等を記載する。

(例) 当帰の場合

和文原稿では、“当帰 (Toki)、*Angelica acutiloba* KITAGAWA (日本奈良県産、大深当帰)”、“当帰 (Dang-gui)、*Angelica sinensis* (OLIV) DIELS (中国四川省産、帰頭)”のように記載し、英文原稿では、“Toki (当帰)、*Angelica Radix. Angelica acutiloba* KITAGAWA (Nara Pref.: Japan, Obuka-Toki)”、“Dang-gui (当帰)、*Angelica Radix. Angelica sinensis* (OLIV.) DIELS (Sichuan prov., 四川省; China, Gui-tou)”のように記載する。

14. ゲラ刷の校正については、初校は著者において行うが、大幅な文章の削除、挿入などは許されない。再校は原則として編集委員会がこれを行うことにする。

15. 別刷を必要とする場合には、料金 (表紙付き) を本会事務局の請求に応じて支払うものとする。なお、原著論文に限り、30 部まで無料とする。

16. 原稿は

〒174-0051

東京都板橋区小豆沢 2-9-19

比較統合医療学会事務局

TEL 03-5915-5308 FAX 03-5915-5319

E-mail : info@jstvm.jp

書留郵便もしくはメールにて送付されたい。

17. 本学会誌に記載された論文の著作権は、比較統合医療学会に帰するものとする。